

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、「町と共に歩む」グループホームを目指している。理念の共有にあたっては会議等で理念に基づく運営について話し合っている。	区長に関わって貰う事により地域住民の捉え方に变化があり、グループホームとして本来の姿が正しく理解されるようになった。理念の共有に向け職員共に、取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事に限らず周辺住民と施設行事での交流、散歩等での会話など生活上での交流が継続できるよう自ら屋外活動を行うようにしている。	町内の草取りに参加したり、近所の方から野菜を頂いたり、お茶飲み等、交流を図っているが、近い内に事業所で祭りを催し近隣の方々と協働し、準備中である。	祭りの成果は楽しみである。これを機会にもっと近隣を巻き込み、事業所に来てもらうイベントなど企画、行動が望まれる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は認知症サポーターとして町民の方に触れ合う機会があった。今後も同様の取り組みに参加していきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々なご意見やアドバイスを頂きながら、自施設での取り組みについて見直す機会が定期的にあることの利点を生かしていると思う。運営推進会議での取り組み方にも工夫をしていく必要がある。	地域包括支援センター、町役場、区長、社会協議会、利用者、家族代表、棟続きの特養から1人、当施設から管理者、主任で構成され、主に活動報告、アドバイスや意見など情報提供して貰っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な地域ケア会議に参加させて頂き、町の担当者との意見交換を行っている。	認知症対応の事業所は町で1か所しかないため、保険年金課に足を運び、常に情報を共有している。また、3か月に1回地域ケア会議に出席し、他事業所の方や担当者との意見交換を行い、協力関係を構築している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っておらず、職員らも行動制限や身体拘束等に関して理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	マニュアルが整備されており、全職員が理解し、普段より利用者の行動を把握し、外に出たい方には職員が付き添う等、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や事例検討会等を通じ高齢者虐待に関して理解を深める機会を設けている。職員らの住む地域においても虐待が見過ごされることがないよう協力することの重要性についても理解できている。	内部研修・事例検討にて学ぶ機会を設けている。入浴時の身体チェックや表情を確認する等工夫して、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内部研修を設け定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては重要事項説明書を用いて十分な理解が得られるよう確認しながら契約締結を進めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口に関して玄関等に掲示し家族等が意見を表しやすいよう工夫した。意見箱については玄関入口に設けている。ご利用者の意見が表しやすいよう運営推進会議にも出席をお願いしている。	利用者と職員で会議を開き、意見交換を行っている。家族からは、面会時に話を聞くよう心掛け、ケアにつなげている。また、意見箱の設置や苦情相談窓口を設け、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議において、職員からの意見を取り入れ課題検討を行っている。日常的にも管理者へ意見や要望が話せるように関係性の構築にも努めており、ホーム運営に反映できている。	管理者と職員は、日頃から意見を言い合える良好な関係ができている。人事考課を取り入れ、目標設定・評価の実施、面談にて個別に意見を聞く機会も設けている。それらを取り入れ働く意欲向上とサービスの質の確保に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており個々の目標設定と達成確認等を通じて向上心を持って働くことのできる環境整備を行っている。代表者は人事考課表のみならず各管理者の意見や要望を取り入れることのできるよう会議を設置している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の定期実施と、外部研修の積極的参加を促し、常に自らの質を向上できる職場となっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じて、別事業所等と交流しながら自らのサービスの振り返りが行なえる場面を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現期間において新規利用者の入居はなかったが、不安のないように家族とのつながりの継続に向けて働きかけを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に限らず、グループホームに入居することでの不安や要望はできる限りお聞きできるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに際し、ご家族等への利用説明において状況等を確認しながら必要に応じてサービス説明を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩であるという認識を職員は共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて職員は高齢者の知識や経験を学ばしていただいている。利用者同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況の報告やご自宅での生活状況の情報提供を依頼するなど関わりを絶たないよう配慮している。必要に応じて家族と外出する機会があるように働きかけを行っている。	家族と連絡を密に行い、常に相談しながら支援している。面会時は居室で過ごせるよう配慮し、自宅への外出支援を行う等、家族の思いを大切に、共に支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大切な場所へ訪問したり、知人、親戚の方々との交流が途絶えないように来所頂いたりご連絡するなどの配慮に努めている。	本人と地域社会との関係性を把握し、年2~3回自宅に帰る支援をしている。自宅周辺をドライブしたり、病院受診で友人との会話を楽しんでもらえるよう、馴染みの人・場所の関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮や孤立しないように皆さんと作業をすすめるなど、個々の関係により様々な働きかけや配慮を行っている。ご利用者同士が助け合い、支え合いながら日々生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係を断ち切らずお会いする機会を設けるなど継続的な付き合いを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に随時インタビューして希望、意向の把握に努めている。ケアプラン作成時に本人の希望、意向を把握してケアプランに反映している。	些細なことでも耳を傾け、特に入浴時等一人で関わり本音を出しやすい場面を大切に「やりたいこと、思い」の把握に努め、本人本位に検討している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用したアセスメントを行い、一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、関係者よりこれまでの暮らしの総合的な把握に努めている。日々の生活の中で生活歴・興味のあること等、意識して引き出すように関わり、ケアに繋げるようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を使用してのアセスメントで一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状を把握し、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア検討会において課題検討やケアの方向性を話し合い、日々の関わりの中での意見や意向を介護計画に反映させている。	月1回のモニタリングと家族を交えてのカンファレンス等定期的に行っている。生活環境や今できることを支援し維持していきたいという思いから、常に話し合いをして介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実線や介護計画の見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々要望に応じて、併設短期入所生活介護施設、併設通所介護施設、地域の温泉保養センターに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等に協力を求めたり、相談を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるようにしている。	利用者が希望するかかりつけ医であり、受診時は家族が同行している。医療管理ノートがあり、受診に必要な情報を提供したり、医師からも情報をもらい、適切な医療を受けられるようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員に体調の変化があるときに、情報提供し、相談しながら医療支援を進めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院したときにできるだけ早期に退院できるように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。入院退院のために病院と連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前に意思確認を行なっているが、入院等の体調の変化があった場合にも随時確認しながら支援している。グループホームで行なえることについても同様に説明しながら支援している。	法人内で重度化や終末期に向けた指針を作成しており、事業所のできる範囲やリスクを明確にしている。入退院の前後や何かあれば家族と次の対応を話し合い、取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習会や避難訓練・消火訓練を定期的に行っている。	月1回、研修を行い急変時・事故発生時に備えている。緊急時マニュアルや連絡体制を電話のところに掲示し事故発生時に備えている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定、併設施設との共同避難訓練等、安全に避難できるように訓練を定期的に行なっている。	年2回併設施設と合同で昼夜想定避難訓練を行い災害に備えている。また、消防署と誘導訓練を実施したり、災害セットの準備もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛けや高齢者への敬意を忘れないように、留意している。カンファレンスなどを通して確認しあえるようにしている。	日頃から職員間で注意し合い、意識を統一して取り組んでいる。排泄時はさりげない声かけや対応を行い、記録は目にふれないようにする等配慮しているが、事あるごとに話し合いを設けているため、利用者の近くでカンファレンスを行うことがたびたびある。	利用者の尊厳と権利を守るためにプライバシーの確保は徹底していく必要性があるので、カンファレンスの場所を検討し、責任ある取り扱いと管理を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、理解できるよう本人に合わせた説明をし、自己決定をして、納得しながら暮らせるよう本人の意思を確認しながら介護している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、どのように過ごしたいか、本人の希望に沿って、本人の意思を確認しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って望む理容・美容店に行っている。衣類についてはご自分でクローゼットから選んでいただけるようお願いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて役割ができており、調理される方、配膳をされる方、茶碗を洗う方と様々である。調理を行う際に相談しながら作業をすすめるなどできることをして頂き自信の維持にもなっている。	食の楽しみを大切にしたいと感じている。一人ひとりの役割ややりたい気持ちを大事にしており、能力に合わせて楽しみながら食事作りを行ったり、献立等常に利用者の意見を伺っている。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み会話しながら楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談しながら入居者の状態に応じた食事量、水分量の提供と、習慣とのバランスを検討しながら食事の支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は皆さんが声を掛け合い、居室でのケアを行う方、トイレ脇の洗面台でケアする方など個々の進め方に合わせて習慣的に行っている。ブラッシングがきちんと行えない方は介助をする場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおよその排泄パターンを把握し、できるだけ自分の力で排せつできるようにお声を掛けたり、提示誘導とするなど個別に支援している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しており定時誘導や利用者のできる力を活かして自尊心を大切しながら支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために食物繊維の多い食材や乳製品の摂取、体操等に取り組んでおり、排泄リズムはおおよそ整っておられる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望に応じて随時変更したり、提供するなどお風呂を楽しみにしていただけしている。	希望やタイミングに合わせてほぼ毎日の入浴を支援している。入浴剤で「かわり湯」を実施する等、楽しみな工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、安心して休息できるように環境整備をした上で介助している。行事等でお疲れになっている時には休息を勧め無理なく生活していただけるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員間で情報を共有して服薬支援に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、レクリエーションや外出、散歩、外食の支援をしている。お掃除を担当されたり、洗濯物たたみを担当されるなど力に応じて役割分担ができています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物はご利用者の希望に沿って共に出かけられるように配慮している。「お墓参り」などといった希望に関してはご家族と共に出かけている等、日常生活上に当たり前のこととして外出ができています。	花見・外食・買い物・ドライブ・地域の行事に参加する等、一人ひとりの希望に沿い日常的に外出しており、楽しみごととなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持、使えるように支援している。預かり金を管理したり、本人がお金を所持したりと本人、家族の意向に沿って援助ができています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙などの通信手段の他、携帯電話を使用する方もおり、個々の意向に沿って日常的に連絡が取れる状態となっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節に応じて装飾し、装飾品もご利用者と共に製作するようにしています。ご利用者が手入れしている鉢植え等も飾り、日々生活するスペースとして違和感のないように配慮している。	建物はバリアフリーが配慮されている。利用者自身の習字や絵も飾られ、多くの写真が楽しいイベントを過ごした事を知らせてくれている。廊下にソファが設置され、思い思いに居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングの他に、視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ご利用者が、家族と相談しながら居室の調度品の配置や季節毎の模様替えを行っている。必要に応じてご自宅から持参いただけであり、ご本人にとって生活しやすいものとなっている。	居室はベット・洗面台が設置されている。本人・家族と相談しながら、家具を配置したり、家庭に近い環境を配慮し持参してもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印は個々の能力に応じて工夫しており、混乱なく生活できている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない